



四日市市立塩浜中学校

第74回卒業証書授与式

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、来賓の方々に参列をご遠慮いただき、例年よりやや少人数の開催となりましたが、23名の生徒が立派に卒業しました。

その姿は緊張感に包まれながらも頼もしく感じるものでした。また、卒業生作詞作曲の「いつか 時が過ぎて」の合唱を式場で聴くことができました。素晴らしいメロディー、心に響く歌詞は、みなさんの思いが詰まったものでした。

卒業証書を一人ひとりに手渡しする際には、一言ずつ言葉をかけさせてもらいました。なかには小さい声で「ありがとうございます」と返してくれる卒業生もあり、「こちらこそ、ありがとうございました。」と返したくなる気持ちでした。

本当にありがとうございました。また、おめでとうございます。
卒業生の皆さん、それぞれの進路での活躍を期待しています。

卒業生に伝えた、式辞を掲載させていただきます。

暖かな春風に誘われて、校庭の桜の蕾も膨らみ始めました。

本日、このように、本校第74回卒業式を挙行できますことを、心より感謝申し上げます。

23名の卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。今、新たな一步を踏み出そうとしているみなさんの脳裏には、この3年間の色々な思い出が去就していることと思います。

卒業証書を受け取る顔には、中学校三年間、義務教育九年間の学びを得て、立派に成長した自信と誇りが感じられました。あなたは本校の卒業生として、塩浜中学校の歴史に確かな足跡を残してくれました。

一人ひとりが熱い思いを持って、仲間とともに一生懸命取り組み、その姿は眩しく輝いていました。

「後輩たちの手本になる」という強い信念のもと、限界に挑戦する姿は、塩中生としてのプライドを示すものであり、

「思いやりをもって、ちがいを認め合える塩中生」

「何事にもチャレンジ精神を持つ塩中生」

「けじめをつけてルールを守る塩中生」

の伝統のバトンを後輩たちにつなぐものでした。

仲間とともに過ごした時間の中で、感じたこと、考えたこと、手に入れたものは、たくさんたくさんあったことでしょう。そして、周りの人たちにも、たくさんの感動を与えてくれました。本当にありがとう。

入学後すぐに、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業、楽しみにしていた自然教室の中止で、共に時間を過ごすことができなかつたのは、大変残念なことでした。その後も学習活動や班活動の制限、昼食時の黙食、部活動の制限等様々な制限が続きました。

昨年の夏の甲子園で優勝した仙台育英高校野球部の須江航(すえわたる)監督はインタビューの

中で「・・・青春って、すごく密なので。でもそういうことは全部ダメだ、ダメだと言われて。活動していても、どこかでストップがかかって、どこかでいつも止まってしまうような苦しい中で。でも本当にあきらめないでやってくれた・・・」とおっしゃっていました。

あなたも「あきらめず」に仲間とともに様々な活動を行ってきました。「いつか時間が過ぎて」もこの経験は色あせることはないでしょう。

この3年間培ってきた仲間との絆は一層深くなったことと思います。
今後の人生において、大きな学びとなることでしょう。そして、その学びは、人間としての幅を広げてくれることでしょう。
世界は新しい時代へと変革していきます。
その変革を、中心となって担っていくのが、あなたです。

順境にあって侮らず（あなどらず）、逆境にあって焦らず、常に前を向き、一步一步着実に歩みを進めていくことを願っています。どうか、感謝の気持ちを忘れず、人の痛みを感じ取れる「豊かな感性」と、冷静に考え行動できる「本物の知性」を持ち続けてください。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございませうございます。中学校の三年間は、悩みも多く、多感な時期で、心配の種は尽きなかったことと思います。
子どもたちは様々な困難を乗り越え、立派に成長しました。これまでの三年間、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましたことに、心より深く感謝申し上げます。今後は、地域や社会の中で、自立・貢献・共生していく子どもたちを、見守り支えてくださいますよう、お願い申し上げます。

輝く未来に向けて、この塩浜中学校で過ごした日々を心の糧にして、力強く、誇り高く、羽ばたいてください。この、かけがえのない仲間たちを生涯の友として、喜びを分かち合い、苦しい時には助け合い、心ゆたかな人間関係を構築して行って下さい。

人生は一回限りで、後戻りはできません。充実した人生を送れるかどうかは、あなた自身の気持ち次第です。
あなたの運命が形作られるのは、あなたが決断する瞬間なのです。

前途に幸多かれとお祈りし、式辞といたします。



© dak

